

眼下に印旛沼、遠くに筑波山や富士山 宗吾に三つの展望台

歴史と伝統文化の
まち・成田。市内に
は、歴史ある文化財
が多数あります。



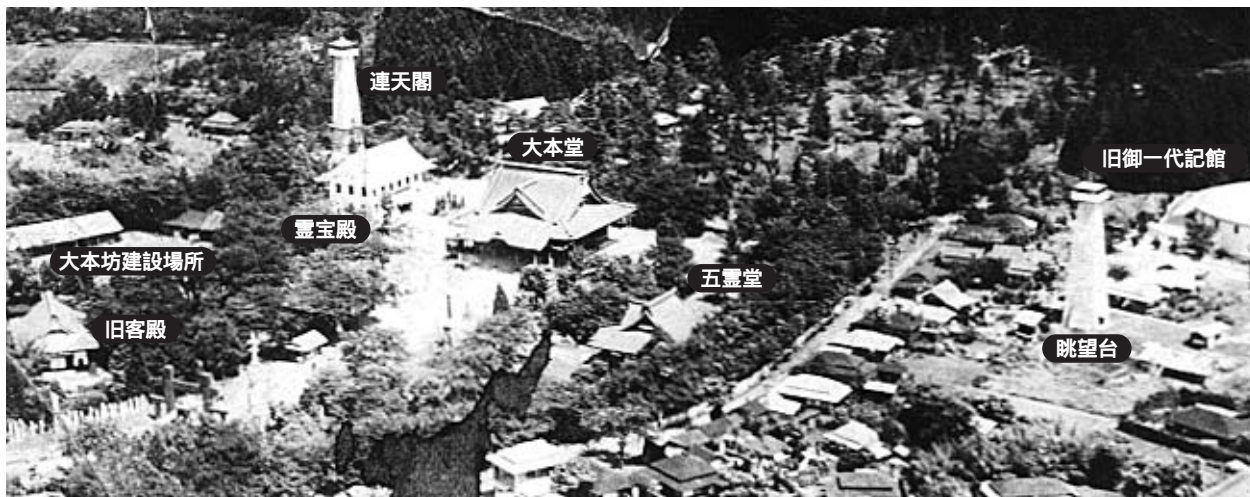
観光客で賑わった連天閣。昭和20年7月に取り壊された（新谷秀雄氏が絵葉書を複写）

義民惣五郎の信仰が生き続ける宗吾霊堂は、明治初期には小さな供養堂があるだけでした。明治43年の宗吾の大火以後、田中照心・三好照嘉の二人の住職は、霊堂の再建に尽力し、ほぼ現在の寺容を完成させました。また、「ちんちん電車」の愛称で親しまれた成宗電車が明治44年に開業し、宗吾参拝を盛んにし、門前町に豊かな潤いをもたらしました。

当時の観光名所として欠かせないものに展望台がありました。一つは「連天閣」で高さが約30mあり、下方の斉藤恵助氏、円城寺菊治氏らの宗吾遊園株式会社によって、大正13年

12月に建設されました。もう一つは大袋の丸達衛氏が昭和2年に設立した旧御一代記館に隣接して建てたもので（年代・正式名称は不明）、連天閣よりやや低い展望台でした。さらに、宗吾4丁目地区には、この2塔が建てられる以前にもう一つの展望台がありました。いつごろ出来たものなのかわかりませんが、連天閣を建てる時には取り壊されていたそうです。

いずれも眺望台の名前で親しまれたもので、干拓前の大きな印旛沼を見渡せ、天気の良い日には筑波山や富士山が一望できたといわれています。



昭和10年7月～17年の間に撮影された宗吾霊堂周辺の航空写真（山崎清氏が所蔵していた写真を複写したもの）

編集後記

「成田おたすけ隊の仕事で、朝の犬の散歩を引き受けたの」という友人の話をきっかけに、本号で成田おたすけ隊を紹介することになりました。利用は、困っている人ならだれでもOKとのこと。社会福祉協議会担当者の熊本さんは、子どもが病気のときに世話を願うことがある利用会員でもあ

り「助けてくれる人が身近にいてくれるから安心して仕事ができる」と語ります。女性の社会進出や核家族化・高齢化が進み「日常生活の困った」が多くなった現代社会。この制度が円滑に運用できるよう、もっと多くの人に会員になってほしいと呼びかけています。